

メッセージアウトライン マタイ 1：18~25「インマヌエル」

「その母マリヤはヨセフの妻と決まっていた」(18) これは婚約のことであり、ユダヤでは婚約するということは法律上の夫婦となるということであった。これを解消するときは離婚手続きが必要。彼らはこのような関係にあるので、19節でヨセフは「夫」と呼ばれている。この婚約期間が終わって結婚式を挙げてから、実際にともに住んで夫婦生活に入るわけである。ところがこの婚約期間中にマリヤが身重になったことがわかった。それは「聖霊による」つまり神の働きによることであったがヨセフはそのことを知らなかった。ヨセフはダビデ王の子孫であったが、彼はこの時大工であった。 マタイ 13:55

「正しい人」(19)とは神を恐れる敬虔なユダヤ人ということ。彼が思ったことは、マリヤが姦淫をしたということである。そのようなマリヤと結婚式を挙げるということは神を恐れる者としてできない。「彼女をさらし者にはしたくなかった」

申命記 22:22~24 によれば死刑にあたる。それでヨセフは彼女を「内密に去らせようと決めた」つまり離縁しようとしたのである。

「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです」(20) ヨセフの決心が実行に移される前に神は介入された。さらに主の使いは、マリヤが男の子を産むこと、その名をイエスとつけること、このお方こそ、ご自分の民をその罪から救って下さるお方であるということを告げた。(21) 「イエス」(ギリシャ語)とはヘブル語の「ヨシュア」と同じで、「主は救い」という意味。「キリスト」は救い主という意味。このイエスという男の子こそが長年にわたって旧約聖書に預言されていた救い主なのである。このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたこと、つまり旧約聖書の預言が成就するためであった。(22) ここでは特にイザヤ書の預言があげられている。(23) イザヤ 7:14 イザヤはイエスの時代より七百年以上も前の預言者である。

「インマヌエル」 神は私たちとともにおられるの意。人間の目では見ることのできない神が今や目に見える人となってこの世に来ようとしている。それは私たち人間とともに生き、歩んで下さり、救いの道を備えて下さるためなのである。そしてこのお方は人となられたがゆえに私たちの弱さをよくご存知なのである。

マタイ 4:15

1. 「インマヌエル」とはどういう意味で、それは誰のことですか。
2. 神は何のために、どのようにして、この世に来てくださったのですか。
3. 私たちが一人の時も共にいてくださり、慰め、励まし、愛し、助け、力を与えてくださるのは誰ですか。
4. ヨセフとマリヤから学ぶべきことは何でしょう。